

事務事業名	予防接種事業		会計	一般会計	実施区分	継続
			事業種別	政策	開始	終了
H29作成課等名	保健課	H29係等名	健康推進係	H28担当課等名 保健課		
基本計画上の位置づけ	政策	3	健やかに安心して暮らせるまちづくり			
	施策	31	心と体の健康づくり			
目的	対象(誰・何を)	市内に住民登録のある接種対象年齢の乳幼児、就学児童、中高生及び65歳以上高齢者			指標名及び単位	28年度数値
	意図(どうい状態にするか)	予防接種の接種機会の安定的確保と、接種対象者に対する接種の勧奨(A類疾病のみ)及び周知			対象指標	913
	向上させたい上位施策の成果指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合			高齢者インフルエンザ予防接種対象者(通知を送付した数)	32378
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績
	成果指標	法定予防接種の中の集団接種(通知送付対象)による接種率(%) H27～ 麻しん風しん(MR)ワクチン第2期の接種済み率			95	94.6
	成果指標	高齢者インフルエンザ予防接種対象者(通知を送付した数)の接種率			65	65
定性目標						
事業概要	<p>1 「予防接種法」並びに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(旧結核予防法)」による予防接種の実施                  対象:乳幼児、就学児童、中学1年生～20歳未満、65歳以上                  予防接種:B型肝炎、ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症、四種混合、三種混合、二種混合、不活化ポリオ、BCG、MR混合(麻しん風しん)、麻しん、風しん、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症、高齢者インフルエンザ(季節性)、高齢者の肺炎球菌感染症</p> <p>平成25年4月1日 ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん等)が定期化                  平成25年度、日本脳炎第2期接種勧奨再開。                  平成25年6月14日から、ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん等)の積極的勧奨が差し控えられている。                  平成26年10月1日 水痘、高齢者肺炎球菌感染症が定期化。高齢者肺炎球菌は、国が5年間に分散した5歳刻みの対象者を前倒しし、導入時から65歳以上全員に実施。                  平成28年度、9歳における日本脳炎2期積極的勧奨再開                  平成28年10月1日 B型肝炎が定期化。国に先行して2か月前倒しで実施。</p>					
28年度事業内容	事業内容			名称	活動指標	
	予防接種法、感染症の予防及び感染症の患者に関する法律による、予防接種の実施対象者に個別通知を郵送、又は学校を通じて配布する。 予防接種情報管理システムにより、管理体制を整備 1 個別接種 (1) B型肝炎(H28.10～)【新】 (2)ヒブ感染症 (3)小児の肺炎球菌感染症 (4)四種混合 (5)三種混合 (6)二種混合 (7)不活化ポリオ (8)BCG (9)MR混合 (10)麻しん、風しん単独 (11)水痘 (12)日本脳炎 ※3～4歳児に対し第1期(3回)積極的勧奨、第2期の積極的勧奨(H14年度生、H18年度生)【新】、未接種者勧奨(18歳) (13)ヒトパピローマウイルス感染症(中学1年～高校1年の女子を対象) (14)高齢者インフルエンザ(季節性) (15)高齢者の肺炎球菌感染症 2 集団接種 (1)二種混合			予防接種予診票送付件数	1 (1)2,448 (2)3,301 (3)3,301 (4)3,296 (5)- (6)72 (7)- (8)816 (9)1,766 (10)- (11)1,701 (12)4,453 (13)- (14)32,378 (15)1,415 2 (1)899	
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足
事業費計(千円)①		228,863	239,229	234,394	0	
国庫支出金						
県支出金						
起債						
その他						
一般財源		228,863	239,229	234,394		
人件費計(千円)②		12,878	0	12,878	0	
正規職員所要時間		3,060		3,060		
臨時職員所要時間		1,800		1,800		
総事業費①+②		241,741	239,229	247,272	0	
事業内容・目標達成状況の振り返り	麻しん風しん混合第2期は、未接種者へ個別に接種勧奨を2回行った。 平成28年度にB型肝炎の予防接種の定期化、日本脳炎2期の9歳への接種勧奨を再開した。B型肝炎の予防接種の定期化に伴い、国に先行して2か月前倒しで行政措置として実施し、接種可能な期間を広げ、利便性を高めることができた。					
改革改善の考え方	①問題点	新しいワクチンの導入、任意接種ワクチンを定期接種化する制度改正、子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨を控える、接種間隔の緩和等、予防接種事業の制度変更が続いている。国の動向を注視し、情報を入手していく必要がある。				
	②改革提案	二種混合予防接種の個別接種化等、関係機関との連携を密にし、変更に伴う迅速な対応をしていく。接種対象者の利便性と接種率の向上を目指しながら、適切な接種が受けられるようにする。				